【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和3年10月7日(2021.10.7)

【公開番号】特開2020-80766(P2020-80766A)
【公開日】令和2年6月4日(2020.6.4)
【年通号数】公開・登録公報2020-022
【出願番号】特願2018-222346(P2018-222346)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｋ　89/0155　(2006.01)
Ａ０１Ｋ　89/015　(2006.01)
Ａ０１Ｋ　89/017　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｋ　89/0155
Ａ０１Ｋ　89/015　Ａ
Ａ０１Ｋ　89/017

【手続補正書】
【提出日】令和3年8月27日(2021.8.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
また、制動トルク提示エリアＡＲ１１においては、スプール制動の制動強度について評価した結果を示す制動強度評価表示が行われる。一具体例として、制動パラメータ補正部２２２は、釣糸放出期間における制動強度について、「適切」、「強い」、「弱い」の３段階での評価を行う。このような制動強度表示に対応する制動強度の評価について、制動パラメータ補正部２２２は、予め定められた標準の張力変化（釣糸放出期間における時刻ごとにおける張力の標準値）に対する、張力変化の乖離度合いに基づいて実行してよい。
そのうえで、制動パラメータ補正部２２２は、制動トルク提示エリアＡＲ１１において示される時間（釣糸放出期間）を、制動強度が強いと評価された評価区間、制動強度が適切と評価された評価区間、制動強度が弱いと評価された評価区間との３種の評価区間で区分して示す。
制動トルク提示エリアＡＲ１１において、制動強度が強いと評価された評価区間は、張力が適正範囲よりも大きい区間であることを示し、制動強度が適切な評価区間は、張力が適正範囲内である区間であることを示し、制動強度が弱い評価区間は、張力が適正範囲よりも小さい区間であることを示す。
例えば３種の評価区間ごとに、それぞれ異なる所定の色を施すようにすることで、３種の評価区間をユーザが視覚的に区別することができる。一具体例として、制動強度が強いと評価された評価区間は赤色、制動強度が適切と評価された評価区間は緑色、制動強度が弱いと評価された評価区間は青色、といったように色を分けて設定することができる。
なお、制動強度に応じた評価区間の区分数は、特に限定されるものではない。例えば制動強度が強いと評価された評価区間と、制動強度が弱いと評価された評価区間とのそれぞれについて、制動強度に応じてさらに区分してよい。この場合には、例えば、制動強度が強いと評価された評価区間においてさらに区分された区間については、制動強度が強くなるのに応じて、赤色が段階的に濃くなっていくように設定してよい。また、制動強度が弱いと評価された評価区間においてさらに区分された区間については、制動強度が弱くなるのに応じて、青色が段階的に薄くなっていくように設定してよい。

このような制動強度評価表示を見ることで、ユーザは、これまでの制動パラメータの設定のもとで自分がキャスティングを行った際のベイトキャスティングリール１００の挙動について、制動強度の適正さとして感覚的に把握することができる。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６９】

ステップＳ２０６：制動パラメータ補正部２２２は、補正案内画面が表示されている状態のもとで、ユーザによる区間指定操作が行われたか否かについて判定する。

ステップＳ２０７：ステップＳ２０６にて区間指定操作の行われたことが判定された場合、制動パラメータ補正部２２２は、区間指定操作により指定された評価区間を、釣糸放出期間における補正対象の区間として設定する。